

## 4月から確定拠出年金を拡充

### 全社員が加入する仕組みに変更

ダイワコーポレーション（本社・東京都品川区、曾根和光社長）は4月から、確定拠出年金（DC）を拡充し、企業が上乗せ掛金を負担することで全社員が加入する仕組みに変更した。

同社は「100年企業」を目指し、人材育成や働きがいのある環境・制度作り、さらなる物流拠点の展開やサービスの提供に注力している。

2023年度の定年再雇用制度改定に伴い、40歳以上の社員

を対象に年齢を重ねた後の働き方やくらしについて考えるキャリアデザイン研修を実施するなど、キャリア自律思考を醸成することを目的とした施策を行ってきた。

これまで、希望する社員は基本給に含まれる生涯設計手当のうち1000円単位で2万7500円まで確定拠出掛金にすることができた。新制度は全社員を対象に、会社が基本掛金として5000円を負担。加入者

は確定拠出年金にすることができ、金額（2万7500円まで）は変わらず、給与から捻出する確定拠出年金の自己負担額を減らすことができる。

今回の新制度創設は「60歳まで壊れない貯金箱」と言われる確定拠出年金（DC）を拡充させることで、若いうちから退職後のライフプランは自らが考えるという自律意識を全社員にもってほしい、老後の生活設計の一助としてほしい」という狙いがあるという。

ダイワコーポレーションでは今後も会社の財産である従業員がその能力を発揮し、個人と会社がともに成長できる環境を整えていく。